

⑤ 認知症の重症度

認知症の重症度は、有効回答 303 件中、ランク I が 40 件 (13.2%)、ランク II が 98 件 (32.3%)、ランク III が 102 件 (33.7%)、ランク IV が 59 件 (19.5%)、ランク V が 4 件 (1.3%) であった。(表 2-7-2-10 参照)

⑥ 身体障害の重症度

身体障害の重症度は、有効回答 289 件中、J ランクが 59 件 (20.4%)、A ランクが 199 件 (68.9%)、B ランクが 30 件 (10.4%)、C ランクが 1 件 (0.3%) であった。(表 2-7-2-11 参照)

⑦ 高齢者パターン

高齢者の状態を総合的にみてパターン化するために、性別、入浴介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目を対象にして潜在クラス分析(注 1)を行った結果 3 パターンが可能となった。

第 1 パターンは、入浴介助で洗身洗髪介助(50.8%)とその他一部介助(37.4%)が多く、身体障害の重症度で A ランク (85.9%) が多く、認知症の重症度でランク II (38.4%) とランク III (47.7%) の中程度が多いことから、これを「一部介助、中程度重症度」と解釈した。このパターンには、有効回答 242 件のうち 141 件 (58.3%) が該当する。

第 2 パターンは、入浴介助で自立 (38.3%) とその他一部介助 (44.0%) が多く、身体障害の重症度で J ランク (46.1%) と A ランク (53.9%) が多く、認知症の重症度でランク I (41.0%) とランク II (40.3%) が多いことから、これを「自立、軽中程度重症度」と解釈した。このパターンには 52 件 (21.5%) が該当する。

第 3 パターンは、入浴介助で全介助 (38.4%) と洗身洗髪介助 (47.5%) が多く、身体障害の重症度で B ランク (35.2%) と A ランク (42.6%) が多く、認知症の重症度でランク IV (75.3%) が多いことから、これを「全介助、中高程度重症度」と解釈した。このパターンには 49 件 (20.2%) が該当する。(表 2-7-2-12 参照) (潜在クラスモデルの評価経緯は表 2-7-2-13 参照)

(注1) 潜在クラス分析について

潜在クラス分析は、全体集団から異質な部分集団の混在を識別する分析モデルである。

高齢者全体集団でみたとき、性別、入浴介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の4項目間に関連があれば異質な部分集団が混在していると考えて、項目間に関連がない部分集団（これをクラスと呼ぶ）を識別する。具体的には、同一クラス内では対象4項目間に関連がなくなるように識別し、項目間に関連がなくなることを局所独立と呼ぶ。

クラス数は任意であるが、多くすれば局所独立が高まる反面モデルとしての適切さが損なわれる。適切なモデル（クラス数）を評価する指標としてAICやBICなどの情報量規準が用いられ、その数値が低い方が良いとされている。なおここで示すクラス毎の事例件数は確率的に求めた件数である（注2参照）。分析ソフトは“LatentGOLD”を用いた。

3) 解決前と解決後の変化

入浴拒否で解決経験がある310件における、解決前の状況と解決後の状況について割合を算出するとともに、解決前後の関連を分析し、高齢者パターンによる差異も確認した。

(1) 解決前の状況

入浴拒否が解決される前の状況としては、有効回答309件中、「何かと理由をつけて入浴を拒否し、入浴しない日が続いていた」が181件(58.6%)、「浴室まで行っても戻ってしまっていた」が90件(29.1%)、「暴言や暴力を伴い拒否していた」が82件(26.5%)、「たまに入浴するが、ほとんど嫌がって入浴していなかった」が72件(23.3%)、「入浴はするが、暴れたり、文句を言いながら、険しい表情をしていた」が46件(14.9%)、「その場からいなくなってしまった」が15件(4.9%)、「入浴以来清拭のみで対応していた」が5件(1.6%)であった。(表2-7-3-1参照)

(2) 解決後の状況

入浴拒否が解決された後の状況としては、有効回答309件中、「拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった」が119件(38.5%)、「以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた」が108件(35.0%)、「気持ちよくなった」が74件(23.9%)、「渋々ではあるが入浴するようになった」が52件(16.8%)、「拒否せず入浴するようになった」が49件(15.9%)、「安心して入浴するようになった」が24件(7.8%)、「自分から浴室まで行くようになった」が16件(5.2%)、「他の利用者と一緒に入浴するようになった」が11件(3.6%)、「自ら使用するタオルや衣類を出してほしいと言った」が6件(1.9%)であった。(表2-7-3-2参照)

(3) 解決前後の関連

解決前後それぞれの項目重複による影響排除のために、パターン化を経て分析することにした。

① 解決前のパターン

パターン化に用いた方法は潜在クラス分析である。

解決前は5パターンであり、第1は、「何かと理由をつけて入浴を拒否し、入浴しない日が続いていた」(99.9%)に集中している。これに該当する事例が90件(38.6%)であり、“何かと理由をつけて入浴を拒否し、入浴しない日が続いていた”パターンと表示する。

第2は、「暴言や暴力を伴い拒否していた」(99.2%)に加えて、「浴室まで行っても戻ってしまっていた」(41.4%)、「何かと理由をつけて入浴を拒否し、入浴しない日が続いていた」(41.2%)、「入浴はするが、暴れたり、文句を言いながら、険しい表情をしていた」(35.5%)、「たまに入浴するが、ほとんど嫌がって入浴していなかった」(29.5%)を伴っている。これに該当する事例が64件(27.4%)であり、“暴言や暴力を伴った複合的入浴拒否”パターンと表示する。

第3は、「浴室まで行っても戻ってしまっていた」(98.9%)に加えて、「何かと理由をつけて入浴を拒否し、入浴しない日が続いていた」(51.4%)や「たまに入浴するが、ほとんど嫌がって入浴していなかった」(21.5%)を伴っている。これに該当する事例が41件(17.6%)であり、“浴室まで行っても戻ってしまい、理由をつけて拒否していた”パターンと表示する。

第4は、「たまに入浴するが、ほとんど嫌がって入浴していなかった」(93.4%)に加えて、「何かと理由をつけて入浴を拒否し、入浴しない日が続いていた」(37.0%)を伴っている。これに該当する事例が26件(11.2%)であり、“たまに入浴するが、ほとんど嫌がって入浴していなかった”パターンと表示する。

第5は、「入浴はするが、暴れたり、文句を言いながら、険しい表情をしていた」(97.9%)に加えて、「浴室まで行っても戻ってしまっていた」(16.6%)を若干伴っている。これに該当する事例が13件(5.6%)であり、“入浴はするが、暴れたり、文句を言いながら、険しい表情をしていた”パターンと表示する。(表2-7-3-3参照)(潜在クラスモデルの評価経緯は表2-7-3-4参照)

② 解決後のパターン

解決後は5パターンであり、第1は、「拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった」(99.8%)にほぼ集中している。これに該当する事例が81件(34.8%)であり、“拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった”パターンと表示する。

第2は、「以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた」(99.7%)に加えて、「気持ちよいと言うようになった」(18.9%)や「拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった」(11.6%)を若干伴っている。これに該当する事例が62件(26.6%)であり、“以前より拒否は少なくなり、入浴する

回数が増えてきた”パターンと表示する。

第3は、「渋々ではあるが入浴するようになった」(98.7%)に加えて、「気持ちよいと言うようになった」(29.7%)、「以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた」(24.0%)、「拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった」(11.4%)などを多少伴っている。これに該当する事例が37件(15.9%)であり、“渋々ではあるが入浴するようになった”パターンと表示する。

第4は、「拒否せず入浴するようになった」(80.6%)に加えて、「気持ちよいと言うようになった」(47.4%)、「以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた」(15.1%)、「自分から浴室まで行くようになった」(13.4%)などを伴っている。これに該当する事例が35件(15.0%)であり、“拒否せず入浴するようになり、気持ちよいと言うようにもなった”パターンと表示する。

第5は、「安心して入浴するようになった」(93.5%)と「気持ちよいと言うようになった」(82.6%)を共通ベースとして、「拒否せず入浴するようになった」(49.8%)、「自分から浴室まで行くようになった」(38.4%)、「以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた」(27.4%)などを多様に伴っている。これに該当する事例が19件(8.2%)であり、“安心して入浴するようになり、気持ちよいと言うようになった”パターンと表示する。(表2-7-3-5参照)(潜在クラスモデルの評価経緯は表2-7-3-6参照)

③ 解決前後のパターンの関連

各パターンへの帰属確率の相関によって解決前後の関連分析をした。

相関は正負両方表れるが、ここでは「解決前どうであったのが解決後どうなった」という関連をみる観点から正相関にのみ着目する。そしてまず全体的な傾向をみた上で、高齢者パターンによる差異を確認する。

まず全体では、解決前の5パターンと解決後の5パターンのどの相関も認められない。(表2-7-3-7参照)

高齢者パターン1(一部介助、中程度重症度)に限定してみると、解決前パターン5(入浴はするが、暴れたり、文句を言いながら、険しい表情をしていた)から、解決後パターン4(拒否せず入浴するようになり、気持ちよいと言うようにもなった)へと変化する傾向であり、有意水準5%で相関が認められる。(表2-7-3-8参照)

高齢者パターン2(自立、軽中程度重症度)に限定してみると、どの相関も認められない。(表2-7-3-9参照)

高齢者パターン3(全介助、中高程度重症度)に限定してみると、解決前パターン3(浴室まで行っても戻ってしまい、理由をつけて拒否していた)から、解決後パターン3(渋々ではあるが入浴するようになった)へと変化する傾向であり、有意水準1%で相関が認められる。(表2-7-3-10参照)

このように、解決前後の変化は高齢者パターンによってやや異なることがわ

かる。

(4) 高齢者パターン別にみた解決前後の状況

そこで高齢者パターン別にみた解決前後の状況を分析した(注2)。

解決前の状況は、高齢者パターン3(全介助、中高程度重症度)が他の2つのパターンとやや異なっている。

高齢者パターン3(全介助、中高程度重症度)では、「何かと理由をつけて入浴を拒否し、入浴しない日が続いていた」(48.9%)が他の2つのパターンより20%前後少ない反面、「暴言や暴力を伴い拒否していた」(42.2%)が他の2つのパターンより20%程度多い。(表2-7-3-1参照)

解決後の状況についてはそれほど顕著な差はみられない。(表2-7-3-1参照)

(注2) 潜在クラスとの関連分析には帰属確率を用いる

潜在クラスは各クラスへの帰属関係を確率的に表すことから、クラスと他の項目との関連分析に際しても、その確率で表すのが適切である。

例えば、ある事例の帰属確率が、クラス1に対して0.97、クラス2に対して0.03、(全クラスへの帰属確率合計は1.00である)となっている場合、関連分析する項目に対しても同じ確率を適用する。

4) 入浴拒否の解決方法

入浴拒否で解決経験がある310件における、解決方法の割合を算出するとともに、解決方法をパターン化して、どのパターンがどのような結果に貢献するのか、さらにその貢献は高齢者パターンでどう異なるのか分析した。

(1) 解決方法の概況

入浴拒否を解決する時に行った方法を具体的に記入してもらい、その内容を検討評価して65分類した。分類結果は、入浴時間の調整に関するものが2分類、入浴前の工夫に関するものが6分類、誘導の工夫に関するものが20分類、入浴方法の工夫に関するものが11分類、入浴メンバーの調整に関するものが5分類、入浴環境の調整に関するものが11分類、介助者の調整に関するものが5分類、その他が5分類であった。

有効回答308件のなかで多くあがったものは、「入浴前コミュニケーション」が197件(64.0%)、「入浴中のコミュニケーションを増やす」が179件(58.1%)、「笑顔でゆっくり」が169件(54.9%)、「お礼やねぎらい」が140件(45.5%)、「繰り返し誘導」が134件(43.5%)、「湯温の調整」が130件(42.2%)、「浴室室温を調整」が117件(38.0%)、「暖まるからと声かけ」が98件(31.8%)、「本人の状態に応じた時間」が95件(30.8%)、「拒否の理由伺う」が86件(27.9%)、

「トイレ誘導時に一緒に」が 82 件 (26.6%)、「複数のスタッフ」が 79 件 (25.6%)、「一人で」が 72 件 (23.4%)、「本人の状態に応じた」と「身体の一部から」が各 70 件 (22.7%)、「同性介護」が 69 件 (22.4%)、「家族から入浴情報を得る」が 67 件 (21.8%)、「徐々にお湯をかける」が 66 件 (21.4%)、「趣味活動を実施した」と「下着の汚れが見られないように」が各 63 件 (20.5%) などであり、1 事例あたり平均 9.9 項目と多岐にわたる。(表 2-7-4-1 参照)

(2) 解決方法の組み合わせパターン

65 分類のなかから 1 事例平均 9.9 の方法で構成されているのを実際の組み合わせに高い確率で近似するパターンを得るために潜在クラス分析を応用した(注 3)。

その結果 17 の組み合わせパターンを得た。

第 1 パターンは平均 2.7 項目と最少の組み合わせであり、特定の方法への集中がみられず、「仲の良い人と一緒に」(14.8%)、「本人の状態に応じた時間」(14.7%)、「笑顔でゆっくり」(13.5%)、「繰り返し誘導」(12.9%)、「薬を塗るため、医師の指示」(12.2%)、「本人の状態に応じた」(12.1%)、「過去の入浴時間」(11.6%)などに分散している。第 1 パターンの該当事例は 34 件 (11.0%) である。

第 2 パターンは平均 15.8 項目と多様な組み合わせであり、「浴室室温を調整」と「湯温の調整」(各 99.9%)、「入浴中のコミュニケーションを増やす」(96.7%)、「笑顔でゆっくり」(93.5%)、「お礼やねぎらい」(85.1%)、「徐々にお湯をかける」(83.2%)、「入浴前コミュニケーション」(93.4%) の 7 項目を共通ベースとして、「繰り返し誘導」(58.2%)、「暖まるからと声かけ」(56.3%)、「身体の一部から」(51.5%)などで構成されている。第 2 パターンに該当する事例は 31 件 (10.1%) である。

第 3 パターンは平均 8.7 項目の組み合わせであり、「入浴前コミュニケーション」(92.6%)、「入浴中のコミュニケーションを増やす」(81.4%)、「湯温の調整」(76.5%) の 3 項目を共通ベースとして、「笑顔でゆっくり」(65.7%)、「お礼やねぎらい」(43.5%)、「一緒に行って誘導」(44.3%)、「暖まるからと声かけ」(42.0%)などで構成されている。第 3 パターンに該当する事例は 29 件 (9.4%) である。

第 4 パターンは平均 7.0 項目の組み合わせであり、「入浴前コミュニケーション」(79.5%)と「繰り返し誘導」(72.4%)を主として、「本人の状態に応じた」(47.5%)、「呼んでいると誘導」(35.3%)、「薬を塗るため、医師の指示」(30.2%)、「入浴中のコミュニケーションを増やす」(41.1%)、「笑顔でゆっくり」(36.6%)などで構成されている。第 4 パターンに該当する事例は 25 件 (8.1%) である。

第 5 パターンは平均 6.2 項目の組み合わせであり、「繰り返し誘導」(46.2%)、「家族の面会・依頼」(41.5%)、「トイレ誘導時に一緒に」(36.2%)、「入浴前コミュニケーション」(44.9%)、「スタッフを分けた」(34.0%)などに分散した構成である。第 5 パターンに該当する事例は 25 件 (8.1%) である。

第6パターンは平均7.5項目の組み合わせであり、「一人で」(94.3%)を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」(56.3%)、「本人の状態に応じた時間」(40.2%)、「入浴前のくつろぎ」(25.2%)、「入浴中のコミュニケーションを増やす」(35.2%)、「湯温の調整」(41.4%)、「浴室室温を調整」(28.6%)、「同性介護」(35.3%)、「下着の汚れが見られないように」と「拒否の理由何う」(各30.1%)、「コンプレックスの確認」(29.3%)などで構成されている。第6パターンに該当する事例は20件(6.5%)である。

第7パターンは平均7.6項目の組み合わせであり、「笑顔でゆっくり」(99.9%)、「お礼やねぎらい」(84.3%)、「入浴中のコミュニケーションを増やす」の3項目を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」(47.9%)、「本人の状態に応じた時間」(42.3%)、「繰り返し誘導」(46.5%)、「他者から誘導」(33.0%)、「同性介護」(33.8%)などで構成されている。第7パターンに該当する事例は20件(6.5%)である。

第8パターンは平均8.0項目の組み合わせであり、「浴室室温を調整」(59.2%)、「入浴前コミュニケーション」(58.5%)、「入浴中のコミュニケーションを増やす」(53.0%)、「浴室へ誘導し認識を促す」(51.3%)の4項目を主として、「笑顔でゆっくり」(41.5%)、「目や耳などを保護」(40.8%)、「家族と一緒に」(46.1%)、「湯温の調整」(39.5%)、「本人の状態に応じた時間」(38.1%)、「家族の面会・依頼」(35.5%)、「家族から入浴情報を得る」(33.0%)などで構成されている。第8パターンに該当する事例は18件(5.8%)である。

第9パターンは平均6.9項目の組み合わせであり、「入浴前コミュニケーション」(70.9%)と「信頼関係のあるスタッフ」(54.3%)を主として、「本人の状態に応じた時間」(49.6%)、「趣味活動を実施した」(48.6%)、「同性介護」(49.3%)、「入浴中のコミュニケーションを増やす」(49.0%)、「仲の良い人と一緒に」(40.1%)、「お礼やねぎらい」(34.3%)、「本人の状態に応じた」(32.3%)、「暖まるからと声かけ」(32.0%)などで構成されている。第9パターンに該当する事例は18件(5.8%)である。

第10パターンは平均11.2項目の組み合わせであり、「お礼やねぎらい」(90.9%)と「複数のスタッフ」(79.2%)を共通ベースとして、「呼んでいると誘導」(71.1%)、「スタッフを分けた」(65.2%)、「入浴中のコミュニケーションを増やす」(68.4%)、「トイレ誘導時に一緒に」(66.0%)、「繰り返し誘導」(66.1%)、「笑顔でゆっくり」(62.4%)などで構成される。第10パターンに該当する事例は17件(5.5%)である。

第11パターンは平均17.7項目と多様な組み合わせであり、「笑顔でゆっくり」(99.8%)、「お礼やねぎらい」(93.2%)、「入浴中のコミュニケーションを増やす」(87.9%)、「浴室室温を調整」(93.8%)、「湯温の調整」(75.7%)、「一人で」(80.8%)、「本人の状態に応じた時間」(85.1%)、「入浴前コミュニケーション」(75.8%)

の 8 項目を共通ベースとして、「繰り返し誘導」(63.0%)、「トイレ誘導時に一緒に」(56.3%)、「暖まるからと声かけ」(55.2%)、「薬を塗るため、医師の指示」(54.1%)、「家族から入浴情報を得る」(62.4%)などで構成される。第 11 パターンに該当する事例は 17 件 (5.5%) である。

第 12 パターンは平均 12.3 項目の組み合わせであり、「下着の汚れが見られないように」(99.6%)、「湯温の調整」(91.2%)、「浴室室温を調整」(82.9%)、「複数のスタッフ」(75.0%)の 4 項目を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」(66.8%)、「トイレ誘導時に一緒に」(58.6%)、「入浴中のコミュニケーションを増やす」(66.1%)、「笑顔でゆっくり」(58.0%)などで構成されている。第 12 パターンに該当する事例は 12 件 (3.9%) である。

第 13 パターンは平均 13.9 項目の組み合わせであり、「お礼やねぎらい」(99.7%)、「入浴中のコミュニケーションを増やす」(90.7%)、「身体の一部から」(81.4%)、「入浴前コミュニケーション」(81.8%)、「繰り返し誘導」(81.7%)の 5 項目を共通ベースとして、「暖まるからと声かけ」(72.5%)、「呼んでいると誘導」(63.1%)、「家族から入浴情報を得る」(63.4%)、「笑顔でゆっくり」(72.7%)、「拒否の理由伺う」(54.5%)などで構成されている。第 13 パターンに該当する事例は 11 件 (3.6%) である。

第 14 パターンは平均 12.3 項目の組み合わせであり、「暖まるからと声かけ」(88.3%)、「薬を塗るため、医師の指示」(76.9%)、「入浴前コミュニケーション」(78.1%)、「笑顔でゆっくり」(77.1%)の 4 項目を共通ベースとして、「浴室室温を調整」(67.2%)、「湯温の調整」(66.4%)、「拒否の理由伺う」(66.4%)、「入浴中のコミュニケーションを増やす」(66.2%)、「スタッフを分けた」(55.0%)などで構成されている。第 14 パターンに該当する事例は 9 件 (2.9%) である。

第 15 パターンは平均 8.6 項目の組み合わせであり、「笑顔でゆっくり」(99.7%)、「本人の状態に応じた時間」(99.5%)、「入浴前コミュニケーション」(86.8%)の 3 項目を共通ベースとして、「お礼やねぎらい」(62.7%)、「入浴中のコミュニケーションを増やす」(62.5%)、「拒否の理由伺う」(48.8%)、「一人で」(48.9%)などで構成されている。第 15 パターンに該当する事例は 8 件 (2.6%) である。

第 16 パターンは平均 32.5 項目と最多の組み合わせであり、「入浴中のコミュニケーションを増やす」(99.7%)、「笑顔でゆっくり」と「お礼やねぎらい」(各 99.6%)、「身体の一部から」(99.4%)などの“入浴方法の工夫”をはじめ、“入浴前の工夫”、“入浴時間の調整”、“入浴環境の調整”、“入浴メンバーの調整”、“誘導の工夫”、“介護者の調整”、“その他”の全分野に及ぶ実に多種多様な構成である。第 16 パターンに該当する事例は 7 件 (2.3%) である。

第 17 パターンは平均 17.1 項目と多様な組み合わせであり、「笑顔でゆっくり」(99.6%)や「お礼やねぎらい」(99.5%)などの“入浴方法の工夫”や、「繰り返し誘導」(83.1%)他の“誘導の工夫”など、これもほぼ全分野に及ぶ多様な構

成である。第 17 パターンに該当する事例は 6 件 (1.9%) である。(表 2-7-4-2 参照) (潜在クラスモデルの評価経緯は表 2-7-4-3 参照)

(注 3) 組み合わせパターンへの潜在クラス分析の応用

潜在クラス分析は(注 1)に示したような局所独立を仮定して異質な部分集団を識別し、モデルの適切さを情報量規準で評価するのが一般的である。ここでは組み合わせパターンを一定水準以上に明確にすることを優先して、情報量規準によるモデル評価をある程度逸脱するのも良しとした。しかしながらモデルの極度な不適切を回避するために、“LatentGold”が算出する“Classification Statistics”(分類精度情報)の各指標を総合的に評価して局所独立の追及を優先したモデルを定めた。

ここで表す各パターンの該当件数も確率から整数換算した結果である。

(3) 解決方法の組み合わせパターンの貢献

このような解決方法がどんな結果に貢献するのか、17 の組み合わせパターンと解決後のパターンの相関を分析した後、参考までに個別状況との関連を確認する。

まず、解決方法の組み合わせ 17 パターンと解決後の 5 パターンの帰属確率による相関分析を行うと、8 通りの相関が認められる。

1 つめは、解決方法パターン 5 と解決後パターン 1 の相関が有意水準 1% で認められる。解決方法パターン 5 は、“「繰り返し誘導」、「家族の面会・依頼」、「トイレ誘導時に一緒に」、「入浴前コミュニケーション」、「スタッフを分けた」などで構成された平均 6.2 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 1 の“拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった”という結果に貢献している傾向が読み取れる。

2 つめは、解決方法パターン 11 と解決後パターン 5 の相関が有意水準 5% で認められる。解決方法パターン 11 は、“「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「浴室室温を調整」、「湯温の調整」、「一人で」、「本人の状態に応じた時間」、「入浴前コミュニケーション」の 8 項目を共通ベースとして構成された平均 17.7 項目と多様な組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 5 の“安心して入浴するようになり、気持ちよいと言うようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

3 つめは、解決方法パターン 10 と解決後パターン 1 の相関が有意水準 5% で認められる。解決方法パターン 10 は、“「お礼やねぎらい」と「複数のスタッフ」を共通ベースとして、「呼んでいると誘導」、「スタッフを分けた」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「トイレ誘導時に一緒に」、「繰り返し誘導」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均 11.2 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 1 の“拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

4つめは、解決方法パターン8と解決後パターン5の相関が有意水準5%で認められる。解決方法パターン8は、“「浴室室温を調整」、「入浴前コミュニケーション」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「浴室へ誘導し認識を促す」、「笑顔でゆっくり」、「目や耳などを保護」、「家族と一緒に」、「湯温の調整」、「本人の状態に応じた時間」などで構成された平均8.0項目の組み合わせ”であり、その方法が、解決後パターン5の“安心して入浴するようになり、気持ちよいと言うようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

5つめは、解決方法パターン7と解決後パターン5の相関が有意水準5%で認められる。解決方法パターン7は、“「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」の3項目を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」、「本人の状態に応じた時間」、「繰り返し誘導」、「他者から誘導」、「同性介護」などで構成された平均7.6項目の組み合わせ”であり、その方法が、解決後パターン5の“安心して入浴するようになり、気持ちよいと言うようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

6つめは、解決方法パターン1と解決後パターン4の相関が有意水準5%で認められる。解決方法パターン1は、“「仲の良い人と一緒に」、「本人の状態に応じた時間」、「笑顔でゆっくり」、「繰り返し誘導」、「薬を塗るため、医師の指示」、「本人の状態に応じた」、「過去の入浴時間」などに分散した平均2.7項目と最少の組み合わせ”であり、その方法が、解決後パターン4の“拒否せず入浴するようになり、気持ちよいと言うようにもなった”に貢献している傾向が読み取れる。

7つめは、解決方法パターン12と解決後パターン2の相関が有意水準5%で認められる。解決方法パターン12は、“「下着の汚れが見られないように」、「湯温の調整」、「浴室室温を調整」、「複数のスタッフ」の4項目を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」、「トイレ誘導時に一緒に」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均12.3項目の組み合わせ”であり、その方法が、解決後パターン2の“以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた”に貢献している傾向が読み取れる。

8つめは、解決方法パターン13と解決後パターン3の相関が有意水準5%で認められる。解決方法パターン13は、“「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「身体の一部から」、「入浴前コミュニケーション」、「繰り返し誘導」の5項目を共通ベースとして、「暖まるからと声かけ」、「呼んでいると誘導」、「家族から入浴情報を得る」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均13.9項目の組み合わせ”であり、その方法が、解決後パターン3の“渋々ではあるが入浴するようになった”に貢献している傾向が読み取れる。(表2-7-4-4参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によっても、上記の傾向が確認できる。

解決方法パターン5では、解決後に“拒否されることは多いが、以前よりは入

るようになった”が75.5%と多くなっており、これは解決後パターン1の主要項目である。

解決方法パターン11では、解決後に“気持ちよいと言うようになった”が53.3%、“拒否せず入浴するようになった”が35.4%、“安心して入浴するようになった”が26.8%と多くなっており、これらは解決後パターン5の主要項目である。

解決方法パターン10では、解決後に“拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった”が64.6%と多くなっており、これは解決後パターン1の主要項目である。

解決方法パターン8では、解決後に“気持ちよいと言うようになった”が30.5%、“安心して入浴するようになった”が22.8%と多くなっており、これらは解決後パターン5の主要項目である。

解決方法パターン7では、解決後に“気持ちよいと言うようになった”が52.2%、“拒否せず入浴するようになった”が27.7%、“安心して入浴するようになった”が20.6%と多くなっており、これらは解決後パターン5の主要項目である。

解決方法パターン1では、解決後に“拒否せず入浴するようになった”が21.2%と多くなっており、これは解決後パターン4の主要項目である。

解決方法パターン12では、解決後に“以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた”が66.1%と多くなっており、これは解決後パターン2の主要項目である。

解決方法パターン13では、解決後に“渋々ではあるが入浴するようになった”が42.5%と多くなっており、これは解決後パターン3の主要項目である。(表2-7-4-5参照)

(4) 高齢者パターン別にみた、解決方法の組み合わせパターンの貢献

次に高齢者パターン1(一部介助、中程度重症度)に限定した相関分析を行うと、4通りの相関が認められる(注4)。(解決方法パターン16は1事例につきとりあげない。)

1つめは、解決方法パターン13と解決後パターン3の相関が有意水準5%で認められる。これは上記の全体的傾向と同様である。

2つめは、解決方法パターン8と解決後パターン5の相関が有意水準5%で認められる。これも上記の全体的傾向と同様である。

3つめは、解決方法パターン7と解決後パターン4の相関が有意水準5%で認められる。解決方法パターン7は、“「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」の3項目を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」、「本人の状態に応じた時間」、「繰り返し誘導」、「他者から誘導」、「同性介護」などで構成された平均7.6項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン4の“拒否せず入浴するようになり、気持ちよいと言うようにもなった”に貢献している傾向が読み取れる。

4つめは、解決方法パターン5と解決後パターン1の相関が有意水準5%で認められる。これも上記の全体的傾向と同様である。(表2-7-4-6参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によってもこれらの傾向が確認できる。

解決方法パターン13では、解決後に“渋々ではあるが入浴するようになった”が49.8%と多くなっており、これは解決後パターン3の主要項目である。

解決方法パターン8では、解決後に“安心して入浴するようになった”が32.7%と多くなっており、これは解決後パターン5の主要項目である。

解決方法パターン7では、解決後に“拒否せず入浴するようになった”が25.9%と多くなっており、これは解決後パターン4の主要項目である。

解決方法パターン5では、解決後に“拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった”が65.7%と多くなっており、これは解決後パターン1の主要項目である。(表2-7-4-7参照)

また高齢者パターン2(自立、軽中程度重症度)に限定した相関分析を行うと、解決方法パターン7と解決後パターン5の相関が有意水準1%で認められる。これは上記の全体的傾向と同様である。(解決方法パターン8は1事例につきとりあげない。)(表2-7-4-8参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によってもこの傾向が確認できる。

解決方法パターン7では、解決後に“気持ちよいと言うようになった”が58.1%、“安心して入浴するようになった”が41.2%、“拒否せず入浴するようになった”が41.4%と多くなっており、これらは解決後パターン5の主要項目である。(表2-7-4-9参照)

高齢者パターン3(全介助、中高程度重症度)に限定した相関分析を行うと、5通りの相関が認められる。(解決方法パターン9は1事例につきとりあげない。)

1つめは、解決方法パターン11と解決後パターン5の相関が有意水準1%で認められる。これは上記の全体的傾向と同様である。

2つめは、解決方法パターン5と解決後パターン1の相関が有意水準1%で認められる。これも上記の全体的傾向と同様である。

3つめは、解決方法パターン1と解決後パターン4の相関が有意水準5%で認められる。これも上記の全体的傾向と同様である。

4つめは、解決方法パターン7と解決後パターン2の相関が有意水準5%で認められる。解決方法パターン7は、“笑顔でゆっくり”、“お礼やねぎらい”、“入浴中のコミュニケーションを増やす”の3項目を共通ベースとして、“入浴前コミュニケーション”、“本人の状態に応じた時間”、“繰り返し誘導”、“他者から誘導”、“同性介護”などで構成された平均7.6項目の組み合わせ”であり、その方法が、解決後パターン2の“以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた”

に貢献している傾向が読み取れる。

5つめは、解決方法パターン8と解決後パターン4の相関が有意水準5%で認められる。解決方法パターン8は、“「浴室室温を調整」、「入浴前コミュニケーション」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「浴室へ誘導し認識を促す」、「笑顔でゆっくり」、「目や耳などを保護」、「家族と一緒に」、「湯温の調整」、「本人の状態に応じた時間」などで構成された平均8.0項目の組み合わせ”であり、その方法が、解決後パターン4の“拒否せず入浴するようになり、気持ちよいと言うようにもなった”に貢献している傾向が読み取れる。(表2-7-4-10参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によってもこの傾向が確認できる。

解決方法パターン11では、解決後に“気持ちよいと言うようになった”が47.2%、“安心して入浴するようになった”が47.2%、“拒否せず入浴するようになった”が47.4%と多くなっており、これらは解決後パターン5の主要項目である。

解決方法パターン5では、解決後に“拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった”が96.6%と多くなっており、これは解決後パターン1の主要項目である。

解決方法パターン1では、解決後に“拒否せず入浴するようになった”が36.5%、“気持ちよいと言うようになった”が27.2と多くなっており、これらは解決後パターン4の主要項目である。

解決方法パターン7では、解決後に“以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた”が100.0%であり、これは解決後パターン2の主要項目である。

解決方法パターン8では、解決後に“拒否せず入浴するようになった”が49.5%、“気持ちよいと言うようになった”が49.4%と多くなっており、これらは解決後パターン4の主要項目である。(表2-7-4-11参照)

(注4) 高齢者パターン別分析の配慮

高齢者パターンと解決方法パターンの双方を潜在確率のまま解決後の状況とのクロス集計不能につき、ここでは便宜的に高齢者パターン1と2を明確に離散した。具体的には、高齢者パターンの潜在確率が大きい方に各事例を定義(=クラスター化)した上で、解決方法パターンと解決後の状況のクロス集計を行った。このクロス集計でも前記同様に帰属確率を用いた。

5) 入浴拒否の解決に役立った情報

上記の解決方法個々について、役立った情報をあげてもらった。

有効回答延べ2,735件の解決方法について、役立った情報の割合を算出するとともに、情報をパターン化して、どの情報パターンがどの解決方法に関連するのか分析した。

(1) 役立った情報の概況

有効回答 2,735 件のなかで多くあがったものは、「本人の気持ち、意志」が 1,150 件 (42.0%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」が 1,076 件 (39.3%)、「気分」が 860 件 (31.4%)、「スタッフとの関係」が 760 件 (27.8%)、「興味・関心」が 334 件 (12.2%)、「性格」が 320 件 (11.7%) などであり、ひとつの解決方法当たり平均 2.7 項目あげられた。(表 2-7-5-1 参照)

(2) 役立った情報の組み合わせパターン

ここでも上記の解決方法同様に、実際の組み合わせに高い確率で近似する組み合わせパターンを得るために潜在クラス分析を応用した。

その結果 16 の組み合わせパターンを得た。

第 1 パターンは平均 2.1 項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(71.1%) と「スタッフとの関係」(53.6%) を主として他に分散して構成されている。第 1 パターンの該当方法は延べ 590 件 (21.6%) である。

第 2 パターンは平均 3.6 項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」(81.9%) を共通ベースとして、「気分」(70.2%)、「スタッフとの関係」(62.0%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(61.9%) の 3 項目も多く、「興味・関心」(20.8%) などで構成されている。第 2 パターンの該当方法は延べ 374 件 (13.7%) である。

第 3 パターンは平均 2.5 項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」(99.8%) を共通ベースとして、「気分」(45.7%) と「興味・関心」(22.7%) を含めた“心理面”にウェイトを置いて構成されている。第 3 パターンの該当方法は延べ 357 件 (13.1%) である。

第 4 パターンは平均 2.8 項目の組み合わせであり、「入浴習慣(自宅)」(54.6%) を主として、「生活歴(幼少期から)」(39.2%)、「過去の入浴体験」(24.2%)、「入浴のこだわり」(29.0%)、「本人の気持ち、意志」(28.4%) などで構成されている。第 4 パターンの該当方法は延べ 254 件 (9.3%) である。

第 5 パターンは平均 1.7 項目と最少の組み合わせであり、「気分」(35.0%)、「興味・関心」(17.6%)、「他の入居者との関係」(17.2%)、「家族関係」(16.4%) 他に分散して構成されている。第 5 パターンの該当方法は延べ 214 件 (7.8%) である。

第 6 パターンは平均 2.2 項目の組み合わせであり、「湯温」(55.5%)、「浴室の温度」(49.3%)、「入浴のこだわり」(26.3%) など“入浴スタイル”にウェイトを置いて構成されている。第 6 パターンの該当方法は延べ 210 件 (7.7%) である。

第 7 パターンは平均 2.8 項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(58.3%)、「本人の気持ち、意志」(52.3%)、「スタッフとの関係」(32.0%) などで構成されている。第 7 パターンの該当方法は延べ 151 件 (5.5%) である。

第 8 パターンは平均 3.7 項目の組み合わせであり、「失禁有無」(79.9%) を共

通ベースとして、「清潔度」(44.1%)、「排泄状況」(36.8%)、「下着の状態」(33.3%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(31.9%)、「本人の気持ち、意志」(30.6%)などで構成されている。第8パターンの該当方法は延べ97件(3.5%)である。

第9パターンは平均2.9項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(37.3%)、「気分」(34.9%)、「言語理解」(34.2%)、「認知機能」(32.2%)、「スタッフとの関係」(27.7%)などで構成されている。第9パターンの該当方法は延べ88件(3.2%)である。

第10パターンは平均3.3項目の組み合わせであり、「性格」(99.5%)を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(50.3%)、「本人の気持ち、意志」(37.5%)、「気分」(30.6%)、「性別」(25.6%)、「認知機能」(22.0%)などで構成されている。第10パターンの該当方法は延べ86件(3.1%)である。

第11パターンは平均3.5項目の組み合わせであり、「興味・関心」(99.5%)を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」(36.3%)、「気分」(34.0%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(35.4%)、「生活歴(幼少期から)」(25.8%)、「スタッフとの関係」(21.2%)などで構成されている。第11パターンの該当方法は延べ72件(2.6%)である。

第12パターンは平均3.3項目の組み合わせであり、「気分」(78.0%)を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」(57.1%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(40.0%)、「入浴時間帯」(31.7%)などで構成されている。第12パターンの該当方法は延べ69件(2.5%)である。

第13パターンは平均3.8項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」(99.8%)を共通ベースとして、「性格」(41.4%)、「スタッフとの関係」(29.3%)、「過去の入浴体験」(28.2%)、「認知機能」(26.5%)などで構成されている。第13パターンの該当方法は延べ51件(1.9%)である。

第14パターンは平均3.5項目の組み合わせであり、「入浴時間帯」(71.3%)と「本人の気持ち、意志」(59.8%)を主として、「気分」(34.3%)、「入浴のこだわり」(26.0%)などで構成されている。第14パターンの該当方法は延べ45件(1.6%)である。

第15パターンは平均4.0項目と多様な組み合わせであり、「現病・既往歴」(81.6%)を共通ベースとして、「バイタル」(57.8%)、「本人の気持ち、意志」(42.6%)、「気分」(40.0%)、「認知機能」(35.4%)などで構成されている。第15パターンの該当方法は延べ39件(1.4%)である。

第16パターンは平均4.4項目と最多の組み合わせであり、「気分」(99.7%)と「スタッフの声かけ内容・見守り方」(81.9%)を共通ベースとして、「スタッフとの関係」(49.2%)、「湯温」(48.8%)、「浴室の温度」(26.4%)、「着替えのストック」(27.1%)、「本人の気持ち、意志」(26.0%)などで構成されている。第16パターンの該当方法は延べ36件(1.3%)である。(表2-7-5-2参照)(潜

在クラスモデルの評価経緯は表 2-7-5-3 参照)

(3) 情報の組み合わせパターンが関連する解決方法

上記の情報組み合わせがどの解決方法に関連するか分析すると次の傾向である。

第 8 パターン（「失禁有無」を共通ベースとして、「清潔度」、「排泄状況」、「下着の状態」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均 3.7 項目の組み合わせ）は、「トイレ誘導時に一緒に」が 33.6%、「下着の汚れが見られないように」が 16.9%と多い。

第 6 パターン（「湯温」、「浴室の温度」、「入浴のこだわり」など“入浴スタイル”にウェイトを置いて構成された平均 2.2 項目の組み合わせ）は、「湯温の調整」が 30.7%、「浴室室温を調整」が 24.9%と多い。

第 14 パターン（「入浴時間帯」と「本人の気持ち、意志」を主として、「気分」、「入浴のこだわり」などで構成された平均 3.5 項目の組み合わせ）は、「本人の状態に応じた時間」が 21.3%、「過去の入浴時間」が 13.2%と多い。

第 4 パターン（「入浴習慣（自宅）」を主として、「生活歴（幼少期から）」、「過去の入浴体験」、「入浴のこだわり」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均 2.8 項目の組み合わせ）は、「家族から入浴情報を得る」が 15.3%と多い。

第 11 パターン（「興味・関心」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「気分」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「生活歴（幼少期から）」、「スタッフとの関係」などで構成された平均 3.5 項目の組み合わせ）は、「入浴前コミュニケーション」が 14.7%、「入浴中のコミュニケーションを増やす」が 10.1%と多い。

第 13 パターン（「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「性格」、「スタッフとの関係」、「過去の入浴体験」、「認知機能」などで構成された平均 3.8 項目の組み合わせ）は、「拒否の理由伺う」が 13.9%、「入浴前コミュニケーション」が 10.0%と多い。

第 15 パターン（「現病・既往歴」を共通ベースとして、「バイタル」、「本人の気持ち、意志」、「気分」、「認知機能」などで構成された平均 4.0 項目と多様な組み合わせ）は、「浴室室温を調整」が 13.0%、「拒否の理由伺う」が 12.8%、「暖まるからと声かけ」が 11.0%と多い。

第 2 パターン（「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「気分」、「スタッフとの関係」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」の 3 項目も多く、「興味・関心」などで構成された平均 3.6 項目の組み合わせ）は、「入浴前コミュニケーション」が 12.0%と多い。

第 16 パターン（「気分」と「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」、「湯温」、「浴室の温度」、「着替えのストック」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均 4.4 項目と最多の組み合わせ）は、「入浴前コミュニケーション」が 11.8%と多い。

第 1 パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「スタッフとの関係」を

主として他に分散して構成された平均 2.1 項目の組み合わせ) は、「笑顔でゆっくり」が 10.1%と多い。(表 2-7-5-4 参照)

6) 絶対にやっけてはいけない対応

絶対にやっけてはいけない対応としては、有効回答 318 件中、「本人の意志や気分を考えず無理矢理入浴させる」が 292 件 (91.8%)、「いきなりお湯をかける」が 291 件 (91.5%)、「感情的に対応する」が 283 件 (89.0%)、「何日も入浴しないで放っておく」と「拒否されているからそのままにして関わらない」が各 281 件 (88.4%)、「自尊心を傷つける言葉(汚い、臭いなど)で説得しようとする」が 280 件 (88.1%)、「間をあげずに、何度もしつこく誘う」が 259 件 (81.4%)、「入浴の時間だからと介護者側のペースで誘う」が 244 件 (76.7%)、「わざと服を濡らす、汚す等して入浴させる」が 228 件 (71.7%)、「だまして浴室に連れて行く」が 156 件 (49.1%) となっている。(表 2-7-6-1 参照)

(表 2-7-1-1) 回答者の年齢

	有効回答数	24歳以下	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60歳以上
実数	319	11	34	51	38	29	30	52	50	24
パーセント	100.0	3.4	10.7	16.0	11.9	9.1	9.4	16.3	15.7	7.5

(平均年齢等)

有効回答数	平均 歳	標準偏差 歳	最小値 歳	最大値 歳
319	43.8	12.6	21	93

(表 2-7-1-2) 回答者の性別割合

	有効回答数	男	女
実数	328	71	257
パーセント	100.0	21.6	78.4

(表 2-7-1-3) 回答者の現在の職名

	有効回答数	ケアワーカー	相談員	ケアマネジャー	看護師	その他
実数	310	136	9	96	13	86
パーセント	100.0	43.9	2.9	31.0	4.2	27.7

(表 2-7-1-4) 回答者の役職

	有効回答数	施設長	管理者	主任・リーダー	事務長	理事長	なし
実数	315	17	122	87	1	0	92
パーセント	100.0	5.4	38.7	27.6	0.3	0.0	29.2

(表 2-7-1-5) 回答者の所有資格

	有効回答数	看護師(准看護師)	介護福祉士	社会福祉士	ケアマネジャー	ヘルパー	その他
実数	320	31	211	9	125	134	18
パーセント	100.0	9.7	65.9	2.8	39.1	41.9	5.6

(表 2-7-1-6) 回答者の所属事業種

	有効回答数	介護老人福祉施設	介護老人福祉施設(ユニット型)	認知症対応型共同生活介護事業	小規模多機能型通所介護事業	その他
実数	321	0	1	306	4	16
パーセント	100.0	0.0	0.3	95.3	1.2	5.0

(表 2-7-1-7) 回答者の所属事業所での勤続年数

有効回答数	平均 年	標準偏差 年	最小値 年	最大値 年
328	4.2	2.8	0.2	22.8

(表 2-7-1-8) 回答者の総介護経験年数

有効回答数	平均年	標準偏差年	最小値年	最大値年
327	9.1	5.5	0.7	39.3

(表 2-7-2-1) 入浴拒否の解決経験の有無

	有効回答数	ある	ない
実数	325	310	15
パーセント	100.0	95.4	4.6

(表 2-7-2-2) 高齢者の年齢

	解決経験のある有効回答数	74歳以下	75~79歳	80~84歳	85~89歳	90歳以上
実数	289	14	44	71	91	69
パーセント	100.0	4.8	15.2	24.6	31.5	23.9

(平均年齢等)

解決経験のある有効回答数	平均歳	標準偏差歳	最小値歳	最大値歳
289	85.0	6.1	68	100

(表 2-7-2-3) 高齢者の性別割合

	解決経験のある有効回答数	男	女
実数	301	45	256
パーセント	100.0	15.0	85.0

(表 2-7-2-4) 認知症の原因疾患

	解決経験のある有効回答数	アルツハイマー型	脳血管疾患型	前頭側頭型	混合	その他
実数	284	154	73	6	20	31
パーセント	100.0	54.2	25.7	2.1	7.0	10.9

(表 2-7-2-5) 機能障害部位

	解決経験のある人	首	上肢	下肢	体幹	無回答(=なし)
実数	310	0	5	57	4	244
パーセント	100.0	0.0	1.6	18.4	1.3	78.7

(表 2-7-2-6) 食事介助

	解決経験のある有効回答数	全介助	一部介助	自立
実数	300	1	37	262
パーセント	100.0	0.3	12.3	87.3

(表 2-7-2-7) 移動

	解決経験のある有効回答数	杖自立	短距離歩行自立	長距離歩行自立	その他(回答者追記)
実数	278	44	120	108	6
パーセント	100.0	15.8	43.2	38.8	2.2

(表 2-7-2-8) 排泄

	解決経験のある有効回答数	身体介助必要	身体介助必要なし
実数	269	88	181
パーセント	100.0	32.7	67.3

(表 2-7-2-9) 入浴

	解決経験のある有効回答数	全介助	移動介助	洗身洗髪介助	その他一部介助	自立
実数	299	25	27	121	103	23
パーセント	100.0	8.4	9.0	40.5	34.4	7.7

(表 2-7-2-10) 認知症の重症度

	解決経験のある有効回答数	I	II	III	IV	V
		何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している	日常生活に支障を来たすような症状、行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	ランクIIの症状がときどき見られ、介護を必要とする(徘徊、失禁など)	ランクIIの症状が頻繁に見られ、常に介護を必要とする	著しい精神症状や問題行動あるいは、重篤な身体疾患が見られ専門医療を要する
実数	303	40	98	102	59	4
パーセント	100.0	13.2	32.3	33.7	19.5	1.3

(表 2-7-2-11) 身体障害の重症度

	解決経験のある有効回答数	J	A	B	C
		何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する	屋内の生活は概ね自立しているが、介助なしに外出しない	屋内の生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活主体で座位を保つ	一日中ベッドで過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する
実数	289	59	199	30	1
パーセント	100.0	20.4	68.9	10.4	0.3